

## 背景

2020年10月28日現在での浜松の状況は「新しい生活様式を踏まえた学校の行動基準」において、警戒レベルの低いレベル1の段階にあると判断されている。

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動	部活動（自由意志の活動）
レベル1	1mを目安に学級内で最大限の間隔をとること	十分な感染対策を行った上で実施	十分な感染対策を行った上で実施

## 語句定義

発熱：参加前体温・体調記録にある 平熱+1℃ の状態。または 37.5℃を超える状態

感染：次に示す症状が4日程度持続する状態

- ・発熱、咳、喀痰（いわゆる痰）、咽頭痛、鼻汁等の果然と同様の症状
- ・倦怠感、嗅覚、味覚異常
- ・嘔吐、下痢などの消化器症状
- ・継続した発熱

マスク等：マスク、フェイスシールド、マウスガード

## 新型コロナウイルス感染対策

- スカウト、指導者、保護者、ひよこ、の参加 および 一般参加に関して
  - 保護者の不安がある場合は、十分な説明を行い、参加を強制しない。
  - スカウト、指導者、保護者、ひよこは活動参加前に体温を測り発熱等風邪症状のある場合には活動に参加しない。
  - 新型コロナウイルス感染症では、一旦症状が治まっても再発する可能性があるため、過去2週間以内に発熱等風邪症状があったスカウト、指導者、保護者は活動に参加しない。
  - 健康観察記録は各家庭において保存し、活動前に隊長に報告する。
  - 活動中に発熱等体調不良になった場合は、速やかに保護者に連絡し、保護者に引き渡すまで他者との接触を可能な限り避ける。
  - 活動後2週間以内に体調不良になった場合、速やかに隊長、団に連絡を入れる。
  - 団に所属しない体験者が参加する場合、連絡先等、を明確にし 団にて 各隊に仮配属し感染対策等 スカウト、保護者に準じて行う。  
(cf. 当日での参加は認めず、問い合わせがあった場合 最寄りの団を紹介する)

### 2. 活動前（屋外にて）

- お互いの距離を2m以上確保出来ない場合、必ず マスク等を着用する。
- 各隊にて 受付時 健康観察記録（別紙参考）を確認し発熱等風邪症状の有無を確認する
- 各隊にて 手洗い・手指消毒を行う（来賓・主催者は受付にて）
- 水分を補給する際など、マスクを着用しない場合、密集しないように指導する。

### 3. 活動中(屋外にて)

- (1) 集合体形はお互いの距離を1～2m程度空け、近距離での会話や発声を避ける。
- (2) お互いの距離を2m以上確保出来ない場合、必ず マスク等を着用する。
- (3) 水分を補給する際など、マスクを着用しない場合、密集しないように指導する。
- (4) できるだけ個人の装備を使用し、スカウト、保護者、指導者同士の貸し借りをせず、器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いをを行う。
- (5) 歌唱、祝声の際は十分な間隔をとり、人がいる方向に口が向かないようにする。  
**多人数が集まる セレモニー時は歌を拡声器で流し、心の中で歌う。祝声は屋外 マスク等着用時は 通常に行い その他の場合 拍手や感謝の礼で代替える。**

### 4. その他、基本的な感染症対策

#### (1) 手洗いの徹底と消毒の活用

ア. 流水と石けんでの手洗いの徹底

イ. 石けんやアルコールに過敏に反応する、または手荒れの心配がある場合は、流水ですっきり洗うなどの配慮をする。

ウ. 手洗い後は、清潔なハンカチ等を使用し、手を洗う前に目や鼻や口を触らないように指導する。

エ. 通常、マスク等を着用する。

オ. マスクを触らないように心がけ、マスクを触った後は手を洗うように心がけることを指導する。

カ. マスク着用時はマスク内の湿度が保たれ、喉の渇きなど脱水症状を感じにくくなる。気候の状況等により、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外す指導をする。熱中症などその他のリスクが懸念される場合は、スカウトが自己の判断によりマスクを外し、その際の咳エチケットや他のスカウトとの距離を保つなどの配慮ができるよう指導する。

キ. 共通装備を使用前の装備の消毒、使用後の手指の消毒もしくは手洗いを徹底する。

### 5. スカウトが本感染症について理解し判断・行動できる指導

- (1) 指導者の目が届かない所で、スカウトが感染のリスクを自ら判断し、これを避ける行動をとることができるよう、感染症対策に関する指導を行う。(飛沫感染、接触感染の仕組みに関して)

### 6. 飲食に関して

- (1) 食事前に手指の消毒が行えるように計画、準備する。
- (2) 飛沫感染を防ぐために、会話は控え、密集しないよう指導する。
- (3) 喫食にあたっては、飛沫感染を防ぐため、向かい合わせにならないようにし、会話を控えるように指導する。
- (4) 食器はスカウト個人装備を使用する。共用はしない。